20代～40代に多い「子宮内膜症」「子宮筋腫」 低侵襲手術 体への負担が少ない でいち早く元の生活に

生理のある女性のうち約10人に1人がかかる「子宮内膜症」、同じく約4人に1人にできる「子宮筋腫」。20代～40代に多い病気ですが、その年代は仕事や家庭生活など何かと忙しく、できるだけ体に負担が少なく手術後の回復が早い治療法を選びたいですね。四半世紀もの長きにわたり、婦人科系疾患で患者の負担が軽い低侵襲手術に取り組んでいる倉敷成人病センター理事長・ロボット先端手術センター長の安藤正明先生に聞きました。

腹腔鏡下手術の進化版「ロボット支援下手術」

ロボット支援下手術は、ロボットが自動的に手術を行うわけではなく、あくまでも手術を行うのは医師で、医師がロボットを的確に操作することで精密な手術が実現します

子宮内膜症、子宮筋腫の手術は一般的には開腹手術、腹腔鏡下手術がありますが、当院では体に負担が少なく術後の回復が早い低侵襲手術（ロボット支援下手術）を積極的に実施しています。

■腹腔鏡下手術

腹腔鏡という直径0・5～1㎝ほどの長い棒状のカメラを用いた手術です。腹部に0・5～1㎝ほどの穴を1～4カ所開け、炭酸ガスでおなかを膨らませてから腹腔鏡を挿入し、腹部内部（腹腔）の様子をモニターで確認しながら、鉗子（かんし）という特殊な細い器具を使って手術を行います。骨盤内には重要な臓器が狭いスペースにまとまっていますが、それらを拡大したカメラ映像で確認できるため、正確で安全な手術を行えます。

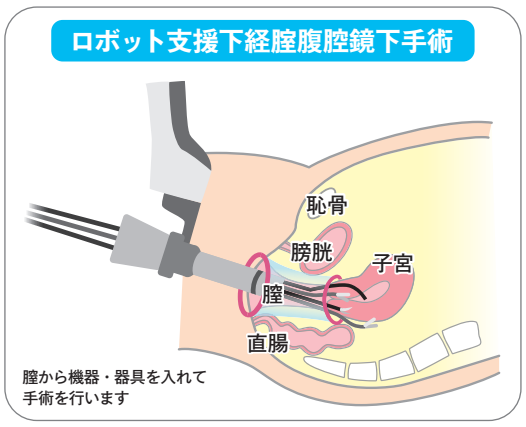
■ロボット支援下手術

手術支援ロボット「ダビンチ」を用いた手術で、腹腔鏡下手術の進化版ともいえます。腹腔鏡下手術で医師が行っていた鉗子などの操作は、ロボットアームを介して行います。ロボットアームは手振れがなく、繊細な動きができる可動域の広い関節があるため、より正確で安全な手術が行えます。

■おなかにまったく傷を作らない手術も

当院では2013年に岡山県内の民間病院で初めてダビンチを導入。最先端の医療技術を患者さんに安心して受けていただくために、21年にロボット先端手術センターを開設し、現在3台のロボットが稼働しています。23年4月には1カ所の穴だけでカメラや鉗子を挿入できる最新機種「ダビンチSP」を西日本で初めて導入しました。ダビンチSPを使い、膣から腹腔鏡下手術」を国内で初めて実施したのは23年6月で、年間56件実施しました（2025年度）。

ロボット支援下経腟腹腔鏡下手術



膣から機器・器具を入れて手術を行います

子宮体がんのロボット支援下手術の実績も

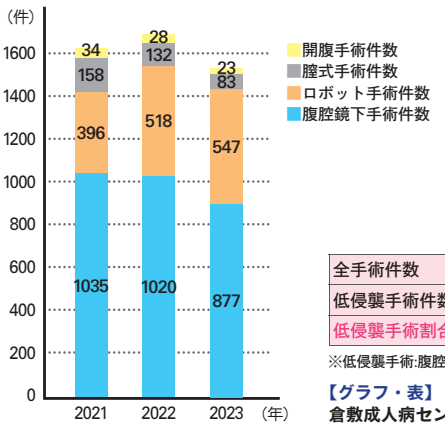
低侵襲手術を行うには、高度な医師の技術が必要です。手術を任せる医師・病院を選ぶ際、次の3点を確認することをお勧めします。

①腹腔鏡下手術・ロボット支援下手術の認定医である

②腹腔鏡下手術・ロボット支援下手術の件数が多い医師・病院である

③手術のデメリットもしっかり説明してくれる

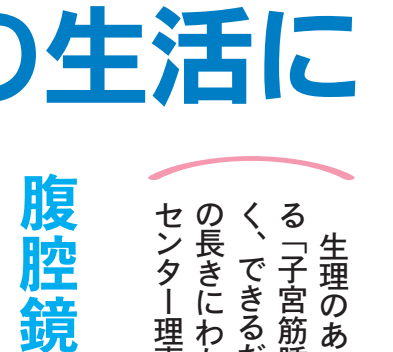
当院には日本ロボット外科学会が認定するダビンチの専門医が複数おり、近県はもとより東京など全国から患者さんが来られます。最高難度の直腸子宮内膜症や尿管子宮内膜症の手術も多数行っています。また、年々増加している子宮体がんのロボット支援下手術にも多数の実績がありますので、ご相談ください。



	2021年	2022年	2023年
全手術件数	1623	1698	1530
低侵襲手術件数	1589	1670	1507
低侵襲手術割合	97.9%	98.4%	98.5%

※低侵襲手術:腹腔鏡下・ロボット・膣式の合計数

【グラフ・表】
倉敷成人病センター 婦人科手術の術式内訳

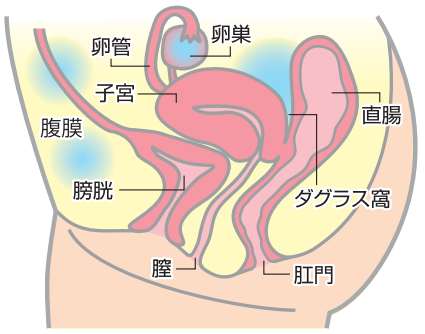


■安藤正明 理事長

岡山朝日高校、自治医科大学医学部卒。1986年から倉敷成人病センター勤務、2019年から理事長。日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医、日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医・指導医、日本内視鏡外科学会技術認定医（産科婦人科）、日本ロボット外科学会（婦人科）国際A級ライセンス、Best Doctors in Japan™2024-2025選出

不妊の原因にもなる「子宮内膜症」

子宮内膜症が発生しやすい場所



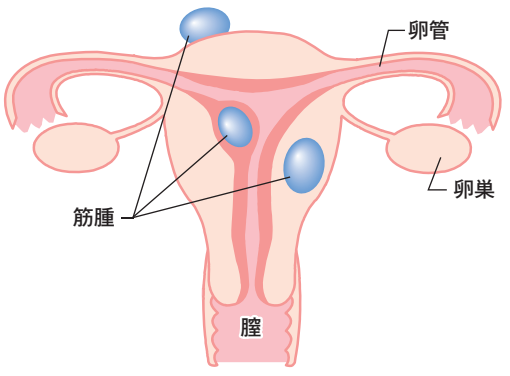
子宮内膜症は、子宮の内側を覆う子宮内膜に似た組織が、子宮以外の場所にできてしまう病気で、生理と同じように女性ホルモンの影響を受けて増殖や出血を繰り返します。しかし、正常な子宮内膜のように膣から排出することができず、その場所に血液がたまり炎症を起こしてしまいます。

【症状】 早期の段階では月経中を中心とした下腹部の痛みが代表的ですが、進行すると周囲の組織と癒着を起こし月経痛が悪化するだけでなく、慢性的な下腹部痛や腰痛、排便時や性交時の痛みが現れます。子宮内膜症は卵巣や卵管などに癒着を引き起こすため、不妊症の原因となるケースもまれではありません。

＊深部子宮内膜症 子宮内膜症を正しく診断するには、MRI画像の読影技術がカギとなります。特に深部子宮内膜症は子宮と直腸の間にあるくぼみ（ダグラス窩）に発症することが多く、多くの臓器が集まる場所でもあるため、画像診断が難しいとされています。併せて、ダグラス窩は直腸を傷つける危険性が高い場所にあるため、手術を行う場合には高度な技術が必要です。

4人に1人にあるといわれる「子宮筋腫」

子宮筋腫が発生しやすい場所



子宮筋腫は、子宮壁にできる良性の腫瘍で、筋肉が異常増殖したもの。原因ははっきりしませんが、女性ホルモンの影響が考えられています。閉経後は縮小し無症状となるため、経過観察をする場合もありますが、生理がある間は大きくなり、通常の大きさが鶏卵くらいである子宮が、筋腫によって子どもの頭くらいの大きさになってしまうこともあります。

【症状】 月経期間が長くなる、月経時の出血量が多くなる、月経時に強い痛みがあるなど、月経時に起こるものが一般的です。また、進行すると腫瘍が大きくなることで周囲の臓器・組織を圧迫し、腰痛や頻尿、便秘などの症状も起こります。

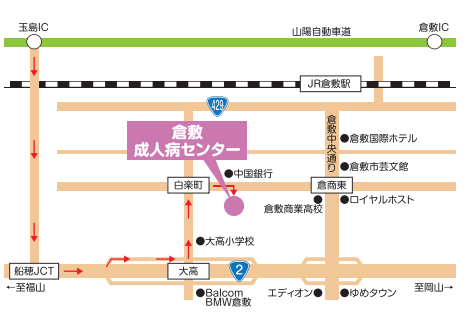
【治療法】 大きく分けて薬物療法と手術があり、薬物療法で改善しない場合は手術を検討します。症状によっては筋腫が小さくても手術が必要になる場合もあります。また、「子宮肉腫」という悪性腫瘍との鑑別が難しい場合もあり、精密検査が必要なこともあります。

電話＆メール相談窓口のご案内

お問い合わせ受付後、担当医師・看護師より折り返しご連絡をいたします。
※恐れ入りますが、非通知設定解除後、発信をお願いいたします。

婦人科電話相談専用ダイヤル
婦人科担当看護師が対応します
080-2947-3673
受付時間 毎週月～金曜日(祝日・年末年始除く) 14:00～16:00
電話&メール相談無料です
患者さん向け相談 お問い合わせフォーム▶

お部屋は「全室個室」
〈特別室3室を除く266床は室料差額不要〉



●福山より高速道路をご利用の方
福山東IC 約19分 玉島IC 船穂JCT国道2号 倉敷方面へ 水島・倉敷市街方面出口へ 約7分 大高交差点 左折し県道274号へ 約3分 白楽町交差点 右折 1㎞先右側 約3分 倉敷成人病センター

●福山より山陽本線をご利用の方
福山駅 約42分 倉敷駅 倉敷駅南口より徒歩約20分 バスまたはタクシーで約5分 倉敷成人病センター

一般財団法人 倉敷成人病センター Kurashiki Medical Center
住所 岡山県倉敷市白楽町250
TEL 086-422-2111(代表)
紹介状なしで受診できます